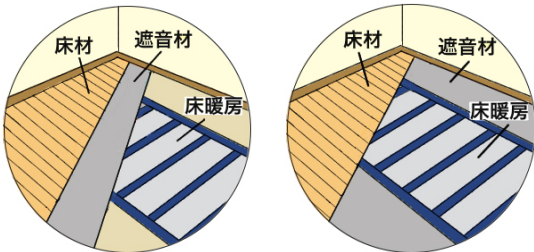


床の遮音材 フロアタイル応援マット

施工のポイント

① 下地を平滑にする  下地の不陸は、1mで3mm以内	② 下地面に専用接着剤塗布  クシゴテを使う
③ 黒いゴム面を上にして床下地に接着  フェルト面が下です	④ ゴム面に専用接着剤塗布  クシゴテを使う
⑤ 良質な9mm以上の合板を捨て貼り  マットは釘が効きません	⑥ 合板は、千鳥（交互）に貼る  継ぎ目は1~2mm程度空ける
⑦ 合板の段差を作らない  段差は0.5mm以内	⑧ 床暖房の上下どちらにも設置可能  施工方法は床暖房メーカーに從う

アトピッコハウス(株) tel 0467-33-4210

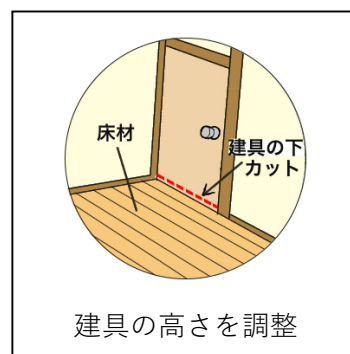
コンクリート床下地に直接張る場合

はじめに

床の遮音性能を要求される場合に効果を発揮するのが、床の遮音材(フロアタイル応援マット)です。コンクリート床面に直接、床遮音材(フロアタイル応援マット)を施工することで、フロアタイル、クッションフロア、コルクマットを施工することが出来ます。最大 LL35 までの遮音性能を発揮します。

施工前のご注意

1. 管理組合に提出する書類のご用意がありますので、ご相談ください。
2. 平滑なモルタル下地を作っていただく必要があります。
3. 部分的な凹凸は必ず補修してください。また、下地の不陸は1 mで3 mm以内としてください。
大きな不陸があると、「浮き」「床鳴り」の原因になります。
4. モルタル等で補修した場合、下地を十分に乾燥させてください。
5. 下地表面は、不陸の原因となる異物を綺麗に取り除いてください。
6. フロアタイル応援マットは床暖房対応品です。床暖房の上下どちらにも設置可能です。
7. フロアタイル応援マットは、水洗い厳禁です。フェルト部分が水を吸ってしまいます。
8. フロアタイル応援マットを挟んだ分だけ、床の高さが既存より高くなる場合は、建具(ドア)の下を切って調整できます。



※試験結果は、埼玉ゴム株式会社 環境メッシュに於ける性能評価試験の測定結果です。遮音の試験条件は1種類でのみ実施しております。実測値であり、現場での性能を保証するものではありません。

手順 1：床遮音材(フロアタイル応援マット)の敷き込み

1. 下地の準備が出来たら、下地面に専用接着剤（UN-5011、UN-7010）をクシゴテで均一に塗布してください。※ 際根太を設置する場所は、あらかじめフェルト部分を除去しておく。
2. フェルト面を下にして、フロアタイル応援マットを敷き込んでください。
3. 壁の周囲、敷居際等は、荷重による沈み込みを防止するため、必要に応じて際根太を設置します。
※フェルトの部分をカッターなどで取り除き、その部分に同じ厚み（8mm）の際根太を入れる。



手順 2：合板を捨貼りする際のご注意

1. 床鳴りの恐れがある場合は、厚さ 9 mm 以上の不陸のない品質のいい合板の捨て貼りを推奨します。
但し、試験条件は 1 種類でのみ実施しております。採用に当たっては、現場でご判断ください。
2. 合板を捨て貼りする場合は、貼り始め、貼り仕舞(部屋の周辺部等)は、3～5mm 隙間を空け、継ぎ目
が同じ位置にならないよう千鳥（交互）に張ってください。また合板の伸縮を考え、適度なエキ
パンション（1～2mm 程度）を取ってください。
※改正建築基準法に適合した合板を使用してください。
3. 合板の継ぎ目などの段差は、0.5mm 以下になるように施工してください。
4. 捨貼合板はしっかりと、フロアタイル応援マットに接着固定させてください。
5. 下地表面は、不陸の原因となる異物を綺麗に取り除いてください。



木下地に張る場合

はじめに

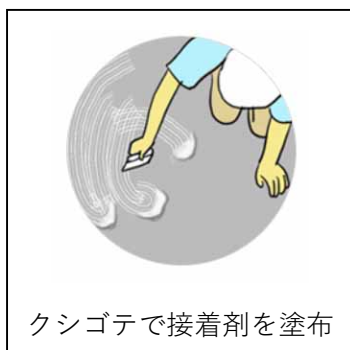
床の遮音性能を要求される場合に効果を発揮するのが、床の遮音材(フロアタイル応援マット)です。木下地にも施工できますが、遮音の試験条件は 1 種類でのみ実施しております。採用に当たっては、現場でご判断ください。

施工前のご注意

1. フロアタイル応援マットを挟んだ分だけ、床の高さが既存より高くなる場合は、建具(ドア)の下を切って調整できます。
2. フロアタイル応援マットは床暖房対応品です。床暖房の上下どちらでも設置可能です。
3. フロアタイル応援マットは、水洗い厳禁です。フェルト部分が水を吸ってしまいます。

手順 1：床遮音材(フロアタイル応援マット)の敷き込み

1. 下地の準備が出来たら、下地面に専用接着剤（UN-5011、UN-7010）をクシゴテで均一に塗布してください。※ 際根太を設置する場所は、あらかじめフェルト部分を除去しておく。
2. フェルト面を下にして、フロアタイル応援マットを敷き込んでください。
3. 壁の周囲、敷居際等は、荷重による沈み込みを防止するため、必要に応じて際根太を設置します。
※フェルトの部分をカッターなどで取り除き、その部分に同じ厚み（8mm）の際根太を入れる。



※試験結果は、埼玉ゴム株式会社 環境メッシュに於ける性能評価試験の測定結果です。遮音の試験条件は 1 種類でのみ実施しております。実測値であり、現場での性能を保証するものではありません。

手順 2：合板を捨貼りする際のご注意

1. 床鳴りの恐れがある場合は、厚さ 9 mm 以上の不陸のない品質のいい合板の捨張りを推奨します。
但し、試験条件は 1 種類でのみ実施しております。採用に当たっては、現場でご判断ください。
2. 合板を捨て貼りする場合は、貼り始め、貼り仕舞(部屋の周辺部等)は、3～5mm 隙間を空け、継ぎ目が同じ位置にならないよう千鳥（交互）に張ってください。また合板の伸縮を考え、適度なエキスパンション（1～2mm 程度）を取ってください。
※改正建築基準法に適合した合板を使用してください。
3. 合板の継ぎ目などの段差は、0.5mm 以下になるように施工してください。
4. 捨貼合板はしっかりと、フロアタイル応援マットに接着固定させてください。
5. 下地表面は、不陸の原因となる異物を綺麗に取り除いてください。



仕上げ材の施工方法

仕上げ材の施工方法については、各メーカーの施工要領に従ってください。

フロアタイルの標準的な施工方法は、以下の通りです。

フロアタイル貼り

1. 床の掃除と下地調整

家具を移動させ、床のホコリやゴミをきれいに掃除機で吸い取り、油分も拭き取ります。床に凹凸や段差がある場合はパテ等で平らに整えておきます。

2. 基準線の墨出し

部屋の中央（長方形であれば一番長い辺の中心）に縦横の十字の基準線を引きます。ここから貼り始めることで、壁際のバランスが整い、仕上がりが美しくなります。

3. 接着剤の塗布

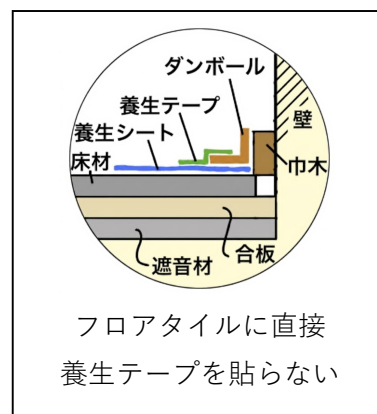
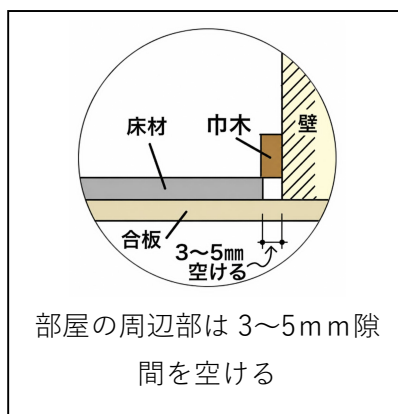
基準線に合わせて床に専用の接着剤を塗り広げます。一度に広い面積に塗らず、タイルを貼れる範囲（数平米ずつ）に分けて塗るのが失敗しないコツです。

4. タイルの貼り付け・カット

接着剤が手につかない程度に乾いたら、基準線に沿ってタイルを並べ、しっかり圧着します。壁際や障害物に当たる部分は、タイルを重ねて印をつけ、カッターで数回切れ込みを入れてカットします。

5. 壁際の処理

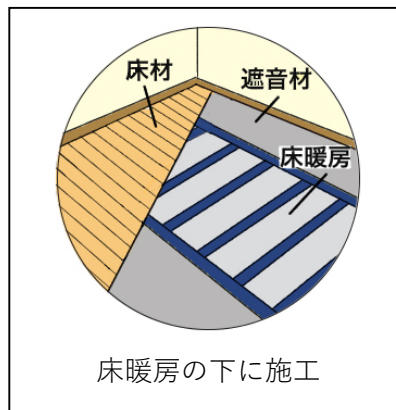
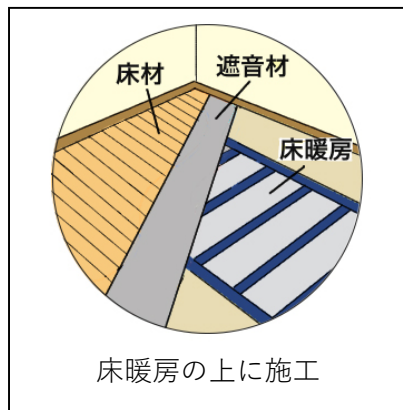
すべてのタイルを貼り終えたら、タイルと壁の間に数ミリ程度の「隙間（エキスパンションジョイント）」をわざと設けるか、コーキング剤で隙間を埋めて完成です。温度変化によるタイルの膨張・収縮で浮き上がるのを防ぎます。



床暖房の工事と併用する場合

フロアタイル応援マットは床暖房対応品です。特別な施工方法は必要ありません。

床暖房の上下どちらにも設置可能です。施工方法は、床暖房メーカーにお問合せください。



フローリングと塗り壁の専門店

アトピッコハウス株式会社

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下 2-6-5

T E L : 0467-33-4210 F A X : 0467-33-4212

<https://www.atopico.com/> info@atopico.com